

タワーズワトソン・インベストメント・サービス株式会社
大海 太郎

第5回「そして、個人の資産運用はどうすべきか」

「そして、個人の資産運用はどうすべきか」

前回は出版企業年金基金のような確定給付企業年金の意義について書いたので、今回は個人の資産運用に関して述べてみたい。

最近よく耳にするように「人生100年時代」となっており、生涯の必要資金も多額となっている。若いうちから少額でも運用して将来の収入源の一つとして確保することはこれまで以上に重要となる。さらに言えば、50代以降定年が近づいても、退職後であっても個人の資産を運用することは貴重な退職後の収入源として必要な時代となっている。

それでは、個人はどのように資産を運用すべきであろうか。実は重要な原則はそれほど多くはない。

1. 長期、2. 分散、3. 積み立て、4. 低手数料、が大原則である。それぞれを以下で簡単に説明する。

1. 長期：個人の資産運用の強みは50年～60年の投資期間が取れることである。50代や60代から始めても20年～30年となる。長期にわたって分散投資をすればほぼ間違いなくリスクに見合った果実を得ることが出来る。逆に言えば、投資してマイナスになったと言って短期で止めないことである。むしろ、長期的にはそこが買い場だったという可能性が高いのだから。

2. 分散：これは様々なレベルで該当するが、個別銘柄よりは「日経平均」といった幅広いインデックス、株式だけよりは債券や不動産（リート）も、日本だけよりは世界の先進国やさらには新興国、といったように対象が広い方が望ましい。したがって個人は投資信託での運用が基本である。

3. 積み立て：実はこれは時間の分散である。何かまとまったお金が必要になっても中断しなくて済む金額を数十年にわたって積み立てて投資して、あとは1年に一回成果を確認するぐらいの投資スタンスが望ましい。退職金等でまとまったお金が入って来たときも、あえて半年～1年以上かけて投資すべきである。

4. 低手数料：今回の4原則でこれが一番重要かもしれない。経済評論家の山崎元氏が主張しているように基本的には投資信託で0.5%以上の信託報酬を取るものは検討対象外として良い。最初に購入手数料を取るものは論外である。

主要なネット証券であれば、以上の原則を満たす6～8資産のインデックス型バランスファンドの投信が適切な手数料で提供されているので、まずはこれに積み立てて投資すれば良い。今日からでも皆さんが以上の原則に則った投資を始めて、リタイア後にも経済的な心配をしなくて済むようになることを願っている。